

◆藪田 貫先生 最新刊のご紹介◆

12月20日（火）、全国の書店で発売されます



中公新書



大塩平八郎の乱

幕府を震撼させた武装蜂起の真相

藪田 貫 著

江戸後期、天保の大飢饉が起こり、深刻な米不足から大坂でも餓死者が続出した。大坂町奉行所の元与力で陽明学者の大塩平八郎は、窮状を見かねて奉行所に救済を嘆願したが容れられず、私塾の門弟らと「救民」を掲げて決起。乱は一日で鎮圧された。自決まで一カ月余り大坂市中で潜伏を続けた大塩の真意は何か。密かに江戸へ送った「建議書」で何を訴えようとしたのか。近年発見の史料もふまえ、幕府を震撼させた事件の全容に迫る。

書誌データ

初版刊行日	2022/12/20
判型	新書判
ページ数	288ページ
定価	968円（10%税込）
ISBNコード	ISBN978-4-12-102730-6

江戸幕府崩壊の30年前、大坂の地で「救民」を掲げて敢然と立ち上がった男がいました。大塩平八郎です。大塩がかつて務めた大坂町奉行所の与力といえば、行政関係をメイン業務としながら、警察官や裁判官の役割も担った重要な役職。大塩の挙兵は失敗に終わったが、名のある元役人が中枢都市で反乱を起こした事実、幕府と一般民衆の双方に大きな影響を及ぼしました。

近年発見の史料もふまえ、江戸時代の「終わりの始まり」となった事件を、「大塩事件研究会」現職会長が読み解きます。

〇プロフィール〇

1948年 大阪府生まれ

1973年 大阪大学大学院文学研究科修了

1974年 大阪大学助手ののち、京都橘女子大学助教授を経て、

1990年4月から2016年3月の間、関西大学文学部教授。

現在、関西大学名誉教授、兵庫県立歴史博物館館長、大塩事件研究会会長。

<おもな著書>

『国訴と百姓一揆の研究』1992、『「武士の町」大坂』2010、『大阪遺産』2020

